

提出された意見の概要及び意見に対する考え方一覧

No.	該当箇所	意見	意見に対する考え方
1	実施方法	<p>芸術文化の公共性に着目し、その発展・保護へ制度化を進めるという視点はとても素晴らしいと思います。多くの地方自治体がこうした非認知領域の醸成に乗り出す中、県予算を一定割合アートへ充てる仕組みの制度化には賛成です。事実、芸術・文化は「命の次に何が大切なのか」という問いを立てたときに、その多様性が担保され、お互いがそれを認め合うことで社会の維持に貢献できるのだと長く考えてきました。</p>	<p>次期群馬県文化振興指針では、新・群馬県総合計画が目指す「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が幸福を実感できる暮らし」を実現するため、様々な文化施策を実施します。</p> <p>多様な文化に触れることで、自分の可能性を広げ、オリジナルな生き方につながる環境を整えていくにあたり、各分野の文化を担う方々の知見や実績が、次の世代につながる機会を創出するなど、人づくりに関する施策を検討し、進めて参ります。</p>
2	政策目標	<p>政策目標に「人づくり」「地域創造」「新たな価値の創出」が併記して盛り込まれていることも良いですね。欧州では各都市に政治から独立した公共劇場があり、芸術監督を中心とした「問われるべき価値ある作品」づくりが文化としても制度としても根付いています。</p> <p>そこではむしろ市場原理には乗らないが、それによって対話を生む、ことが期待される作品を生み出すことが命題になっています。そのために学校教育に演劇などアートを介したコミュニケーション教育がカリキュラムとして組み込まれています。</p> <p>群馬県においても青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラムの修了者や、兵庫県立芸術文化観光専門職大学学長で世界的劇作家の平田オリザによる演劇ワークショップを学んだ人材が複数おります。</p> <p>そうした知見と経験を是非、この施策に生かしていただけたらと希望します。</p> <p>そして、それを実現する「場」としての「公共劇場」が誕生することを期待します。</p>	
3	政策目標	<p>少子高齢化である日本において、今後アートの担い手となっていく子どもを育てていくのも大事であるが、人生100年時代の今、大人や高齢者の人生も先は長いのでアートの担い手として育てていくことで子どもへと繋いでいけると思う。</p>	<p>次期群馬県文化振興指針では、名前のつかない少数派も含む、すべての県民の方が自分の可能性を広げ、オリジナルな生き方が出来ることを目指しています。</p> <p>また、担い手として活躍いただく機会も勿論のこと、その文化を享受出来る環境も同様に整えていくことで、様々な状況の方が文化・アートにアクセスするための文化施策を進めて参ります。</p>
4	政策目標	<p>障害者とアートに関わることはもちろん大事であるが、子ども、高齢者、日本に住む外国人などの普通の人、病気があって外に出られない人などの名前のつかない少数派のような人も、全部含めての多様性であってほしい。全ての人がアートにアクセスできる目標をかかげてほしい。</p>	
5	政策目標	<p>群馬にはすばらしい文化がたくさんある。上毛かるた、群馬交響楽団(地方オケ日本一)、富岡製糸場(世界遺産)、草津温泉(日本一)などもっと大々的に広め、文化で群馬の魅力度をあげるべき。</p> <p>アートによる地域資源の魅力向上も真剣に考え、芸術家にもっと投資をし、より群馬の魅力向上を真剣に考えるべき。</p> <p>障害者支援、国際交流をより強化し、促進すべき。群馬には外国人(太田、伊勢崎等)多く土壌があります。</p>	<p>次期群馬県文化振興指針では、ボーダレスな視点で地域資源を捉えて発信することで、群馬固有の文化の魅力を高めていきます。</p> <p>また、アートならではの、多様な個性や背景を生かした交流や地域の魅力創出を積極的に進めて参ります。</p>